

高校受験・大学受験について 生徒様、保護者様はご一読ください

【高校受験のアドバイス】

1. 中3生の受験の心構え 多くの中3生にとって高校入試は初の試練です。勉強のモチベーション管理・自分に自信を持ち続けられることがまず課題になります。多くの方は部活引退後から受験勉強を始めますが、少なくとも10月までは模試の判定に一喜一憂する必要はありません。秋までは模試の判定がC判定以下だとしても志望校を下げないでください。実は模試は習ったところまでの狭い出題範囲で作られています。故に現時点の点数や偏差値を重く受け取りすぎないでください。特に夏～秋模試の結果は入試の可否に直結しません。中学3年生の後半で習う内容が色濃く入試では出題される以上、そこが模試の出題範囲に出現し出す冬の模試こそが可否の判断材料です。夏や秋の段階でその時の成績状況で進路を決める人が多くいますが、『志望校調査は回数を追うごとに安全志向で出願をする方が増え初回の予想よりも実競争相手は少なくなるという事実』や、『塾で学校内容の先取を終えて入試対策が本格化する秋から冬こそ偏差値の上昇期である』ということを知った上で志望校は強気で保ち続けて（もしくは選んで）欲しく思います。

中3受験生の受験勉強は夏～10月はこれまで勉強していない分を取り戻す、いわば基礎の土台作りをしてください。そしてその期間中に身に着けた基礎力を武器に11月～2月は学校の先取りと平衡して得点すべき問題、捨て問題を見分けて制限時間内で合格点を取る練習をしましょう。（この冬にかけての追い込みがいわば建物の上の部分の建築に該当します。夏から10月までに築いた土台に立派な建物を建てて行くのです。）

これから「受験」という響きや「偏差値」だの「AからEまでの判定」にストレスを感じることもあるでしょう。しかし受験を前にあだこうだ悩みすぎても何も良いことはありません。私たちも全力でサポートします。後ろを見ず前を見て自分の人生をつかみに行きましょう。

2. 補足 仙台圏ナンバー高校を志望する場合 仙台ナンバー高校を狙う場合、ライバルは言わずもがな仙台の中学生です。（仙台には小学校のうちから大学まで見据えて塾に通う層が多くいます。）石巻・東松島からここを目指すには学校の定期テストの点数にこだわるよりも（100点でなくても85点や90点でも評価は5が出るでしょう。）より競争相手の分母が大きい実力テストや模擬試験でどの位置にいるかにこだわりを持ってください。調査書の点数によりますが、本番で8割5分が合格のラインです。初夏～秋にかけて5教科の総合力の引き上げが必要となります、この期間は実力の底上げ、苦手分野潰しが課題です。晩秋～2月は模試を活用するのはもちろん、県内外の過去問や入試予想問題で合格点を安定してとれるように追い込み学習が必須です。選抜クラスの授業を信じてついてきて欲しく思います。

【保護者様へのアドバイス】

時に初めてお子さんが入試を受けられる場合、親は多くのことを考え悩むかもしれません。しかしながら、受験は『子供が主役』であり大人はサポートの姿勢を取ることが最善です。親の不安は子供にも伝染します。親の方が子供の受験を前にして焦ってしまっはけません。またあれこれ問題集を買い与える行動もやめてください、勉強面は私共に預けて欲しく思います。（家庭でしかできない温かい支援をお子様には願います。）

部活引退後から受験勉強を本格化させる場合は一般的に以下のような成績の上がり方をします。ずっと直線を描くのではなく、秋ごろには基礎力が着き、冬にかけて志望校合格に向けて点数を載せていく曲線のイメージです。塾屋の私たちは入試本番を考えて授業をします、夏、秋は親の子も忍耐の時期です。（この時期に親が精神的に参ってしまってお子さんの入試を妨げる言動をされるケースが毎年2、3件散見されます。「（入試に落ちてほしくないし、なにより子供のため）志望校のレベルを下げてこっちを受けさせよう」と親が心に思うのは勝手ですが、それを口にしてしまっはけません。子供は自分の可能性を親により否定されたと捉えるでしょう。安直な『子供のため』は本当に子供のためになるとは塾長の秋山は思いません。）

【大学受験のアドバイス】

1. 地方国公立大を狙う生徒へ 旧帝大レベル以外の地方国公立大学入試はほとんどが共通テストで勝負が決まります。共通テストの国語、数学、英語は独特の問題構成なので学校の学習だけでは対応が難しいです。制限時間内に問題を取捨選択して解く訓練や解き方を習得していない生徒はまず時間内に満足な点数が取れません。また主要教科ではありませんが理社の得点を安定させられない生徒は不合格の可能性が高いです。受験で使う理社科目は学校で既習のものでなくても構いません。(共通テストで点数を取りやすい教科、相性の良い教科を選択ください。)国語、数学、英語でミスをしてカバーできるような合格のために共通テストで必要とされる点数+5点を確保しましょう。

2. 難関国公立大を狙う生徒へ 難関国公立大を目指す方はどうも共通テストを軽視する傾向があるようです。共通テストのうち数学はこれまでのセンター試験や2次試験の問題とは全くの別物です。(特に共通テスト数学I+Aは数学と言うより文章の読解力を試す国語的素養が問われます。)数学は共通テストと2次試験を分けて対策が必須です。逆に国語や英語は共通テスト対策がそのまま2次試験の対策にも繋がる教科なので大いに共通テストの対策をしましょう。(国語や英語の2次試験はマーク試験で培ったスキルを記述問題に当てはめれば良いです。極端な話、共通テストで8割取れる生徒は国、英の記述対策は共通テスト後に本腰を入れれば間に合います。)難関大の中には2次試験で理社がある大学・学科とない大学・学科がありますが、前者の場合は共通テストの勉強と相乗効果を狙って勉強をしなければならないし、後者の場合は2次試験レベルの問題まで着手せず、必要な共通テストのレベルの問題でしっかり必要な点数を取る必要があります。

3. 県内私大・短大・医療専門学校を狙う生徒へ 県内私大や短大、医療専門学校を狙う場合、まずは過去問と対峙しましょう。多くの場合2ないし3教科が受験科目です。学校によっては数学II+Bや古文、漢文が必要ない場合もあります。自分が行きたい進学先の過去問をみつめ必要なことを逆算しましょう。教科が選択できる場合、出来るだけ第一志望校から第三志望校位までつぶしの利く教科を選びましょう。また東北学院大、東北福祉大を狙う場合は舐めてかかると痛い目を見ます。地方国立大に合格した生徒が東北学院大に落ちるケースが多々ありますし、東北地方の進学校の生徒は東北地方の私大の雄であるこの2大学を私大受験の前哨戦として受験するケースが多いです。この2大学はここ数年でレベルがぐんとあがり10年、20年前の保護者世代とは全く別物になっていますので注意が必要です。

4. 難関私大を狙う生徒へ 関東関西の難関私大を狙う場合、2年生までの成績が良い場合、指定校推薦や総合選抜入試(A0入試)などの活用も考えましょう。また共通テスト利用で合格しようなどとは思わないほうが良いです。例えば共通テスト利用だと8割~8割5分がMARCHのボーダーですが、大学独自問題は6割~7割が合格点です。2~4教科の受験科目だけでその大学の過去問から出やすい問題を逆算して、その大学に向けて勉強するほうが勝率は上がります。

【保護者様へのアドバイス】

高3の受験は中3の受験とは違い『学校側が落としにくる試験』です。また浪人すると大手予備校は1年で100万円以上の学費がかかり、また私大を複数併願すると1校につき2万円前後の受験料がかかります。(だいたい皆さん平均私大は3、4回ほど受けるようです。)さらに私大の初回入学納入金というもの非常にやっかいです。これは『ある大学に合格したけれど、より行きたい大学がありそちらの結果待ち、でも先に合格した大学には手付で30万円を支払わないと入学の意思なしとして合格が取り消される』という恐ろしいものです。このように大学受験は後手にまわると想定していた費用以上のものがかかるようになっていきます。あまり営業的なことは言いたくないのですが、高3生の場合、夏~受験直前に時間とお金を惜しまないでください。そこを惜しみ、後で何倍もの費用が高校卒業前にかかっては目も当てられません。志望校現役を狙うならば、必要な時期に必要な勉強をさせてください。

